

2 新聞に親しむ環境づくり

(1) 新聞コーナー

私の経験上で、ただ単に教室に新聞が置かれていても、それを自発的に読む児童は少ないと感じています。今は、新聞を購読していない家庭も多くなり、児童の親の世代（私もそうですが）の活字離れを指摘されているぐらいですから、無理もありません。

そこで、小学生には新聞に親しませる工夫をする必要があると考えています。環境づくりではまず、新聞を加工して児童が親しみやすいように提示することが必要であると思います。また、児童のスクラップなどを作品として掲示することも考えられると思います。環境づくりについていくつか例を提示しながら説明します。

・新聞1面掲示コーナー

毎日の新聞の1面や、先生が気になった記事や写真などを掲示しておきます。なるべく児童が登校したらすぐに見るところに掲示するとよいと思います。最初のうちはあまり見ない児童も多いかもしれません、後で述べる「担任1面トーク」や授業の中などで掲示してある新聞記事にのことについて触れているうちに、児童は自然と毎日記事を見るようになります。

学校で取り組んでいる例としては、学校司書教諭の先生が、全校児童が見られるように、昇降口に記事と先生のコメントを書いたものを掲示している例がありました。全校でNIEを進めている場合は、先生の中で順番を決めて取り組むのもよいと思います。

私の場合、NIEを学級経営の核においていますので、「自分が読ませたい」「児童に考えてほしい」と思う記事は、積極的に教室に掲示するようにしています。

・児童のスクラップ新聞コーナー

児童のスクラップ記事を全員の児童で共有する機会をもちたいものです。そこで、スクラップシートをホルダに入れて掲示したり、ノートを教室後方のロッカーの上に置いて、いつでもだれでも閲覧できるような工夫をしている例があります。

スクラップのよさは自分の興味が広がることです。そのためにも友達のスクラップした記事で考えを交流できるようにしていくことを勧めます。